

「筆者の気持ち」を読み解く力が、 ビジネスの成果と信頼を決める理由



AI時代に最も求められる「人間理解のチートコード」

問1. 傍線部における筆者
筆者の考えを答えなさい。



「会ったこともない
筆者の気持ちなんて、
分かるわけないじゃん」

「本なんて読まなくても、
YouTubeを見れば
情報は手に入るし」

国語のテストでこの問題を見るたびに、えんぴつを投げ出したくなかったことはないだろうか？「他人の頭の中を当てろなんて、超能力者じゃないんだから無理だ」と。

国語のテストは、単なる「嫌がらせ」ではない。



**結論：国語とは、ビジネスの現場で「相手の本当の欲望を見抜き、
お金と信頼を生み出すための最強の交渉術」である。**

大人の世界の「リアル」な話をしよう。社会に出ると、すべての仕事は「誰かの悩みを解決すること」でお金をもらうゲームになる。この力がないと、どうなるか？

言葉通りにしか動けない大人の「残酷な末路」



筆者の気持ち（＝行間）を読めない人間は、
「AIやロボットの代わり」として安く使われ続ける。

言われたことをそのまま
処理する仕事は、AIが
「1秒」で終わらせる。

どれだけ真面目に働いても、
チャンスを逃し続ける。

生き残るために必要なのは、
「人間という複雑なシステム」
を読み解く力だ。



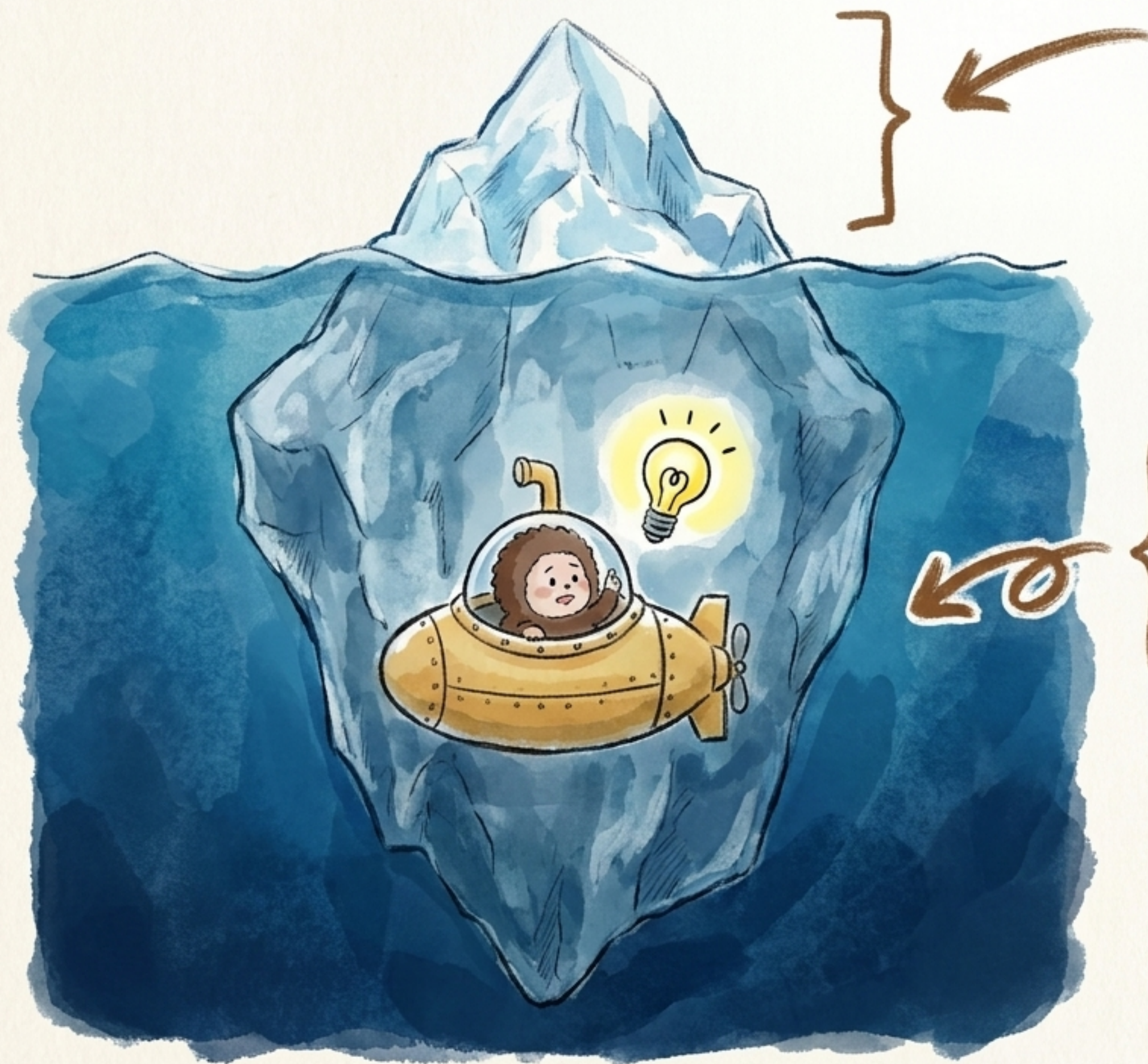
Skill 1:

営業成績と給料を決める 「行間を読む力」

人間は、自分が本当に欲しいものを
「言葉通りには言わない」
生き物である。

【シチュエーション】

あなたは住宅アドバイザー。
家族連れのお客さんがこう言いました。
「とにかく、今より部屋数の多い、
広い家を紹介してください」



顧客の言葉：「面積が広くて
部屋がたくさんある家が欲しい」

【三流（AI同等）の対応】
言葉通りに広い物件のパンフレットを
→ 飽きられて仕事に見放される。

行間（隠されたSOS）：
「子どもが大きくなり、夫婦の
プライベートな時間が持てず
ストレスが溜まっている…」

【一流（国語力）の対応】
防音性の高い書斎や、リビングから
離れた趣味の部屋を提案
→ 「まさにそれが欲しかった！」と
感動され、数千万円の信頼を得る。

Skill 2: 世界を見る「解像度」としての語彙力



自分の感情をこの3つの言葉でしか表現していないなら、危機感を持ったほうがいい。
なぜなら、人間は「自分が持っている言葉の数」でしか、世界を認識できないからだ。
語彙力がない状態とは、ピントのボケたカメラで世界を見ているのと同じである。

ピントのボケた世界



4Kの世界



語彙力とは辞書の暗記ではない。
心を正確に言葉にし、世界を高画質で見るための「レンズ」だ。

Skill 3: 会議のリーダーになる「要約力」



国語の授業でよく見る「筆者の主張を100字以内でまとめなさい」という面倒くさい問題。実はあれ、大人になったとき「会議を支配する力」に直結する。ダメな会議は、話が脱線し、時間が過ぎ、結局何も決まらない。



役職や年齢に関係なく、濁流のような情報から一番大切な「骨組み」だけをズバッと抜き出せる人間が、その場の実質的なリーダーになる。

ビジネスの現場 (課題)	【三流の大人 / AI】	【一流のビジネスパーソン (国語力)】
営業(顧客の要望): 「広い家を」	言葉通りに物件を 大量提案 (飽きられる)	行間から 「隠れたSOS」を読む (数千万の信頼)
トラブル発生時: 壁にぶつかる	「ヤバい」しか 言えずフリーズ	語彙力を使い、 高解像度で状況を 言語化し助けを呼ぶ
混沌とした会議: 話がまとまらない	傍観し、何も決ま らないまま終わる	要約力で「骨組み」を 抽出し、 リーダーシップを握る



これが、情報社会を生き抜く「ビジネス国語力」の全体像。

「答えが一つじゃないからムカつく」の正体

理科・数学



$$a^2 + b^2 = c^2$$

$$2x + 3 = 7$$

100%正しい絶対の正解がある。

国語（現代文）



『だいたいこんな感じだろう』という
人間特有の曖昧さが残る。

君がこれから出ていく社会には、
そもそも明確な『正解』なんて一つも用意されていない。
だからこそ、国語の『曖昧さ』への耐性が武器になる。

国語は「人間」という最も複雑なシステムを攻略するチートコード



取引先の機嫌、同僚とのトラブル、お客さんの隠れた悩み。

すべては曖昧で、言葉の裏に別の意味が隠されている。

この「人間という最も面倒くさい問題」を解く鍵が、国語という教科に詰まっているのだ。

だから、「筆者の気持ち」を想像するのをやめないで。



その想像力はいつか必ず、君の大切な人を理解し、
君自身の人生を豊かに切り拓くための「最も強力な武器」になる。